

O-Forum 2018 (オリエンテーリングフォーラム) のご案内

日時: 2018 年(平成 30 年) 6 月 16 日(土) 14:00 - 17:00

場所: にぎわいプラザ B1 ホール(岐阜県中津川市 JR 中津川駅前 にぎわいプラザ地下 1 階)

テーマ: 「どうなる全日本大会？」

サブ展示およびレクチャー: マイ O-Map を持とう!

参加費: 無料(但しレクチャーを受ける方はナビゲータに資料代に相当する寄付をお願いします)

スケジュール

13:00 - 14:00 : レクチャー「マイ O-map を持とう」(B1 会議室)

14:00 - 16:00 : フォーラム「どうなる全日本大会？」(B1 会議室)

16:00 - 17:00 : レセプション (軽食と意見交換)(B2 会議室)

13:00 - 17:00 : 展示「マイ O-map を持とう」(B1 会議室外側ロビー)

レクチャーと展示(マイ O-map を持とう)

ナビゲータ 坂野翔哉

(坂野山遊地図企画, YMOE でプロ見習い中)

今時の学生オリエンティア(一部社会人オリエンティアも)、国土地理院が無料でネット公開している基盤地図情報からベクトルデータを抜き出し、また Google Street View から取材をして、簡単な自宅周りの地図を作成、自分専用のトレーニング用 O-map を持っています。傾斜のある土地だと市街地でも等高線読みのトレーニングも一緒にできます。トレーニング中の現地コンタクトで地図精度が都度アップしていきます。中には東大 OLK 卒 1 年目の H 君のように OLK 構成の全女子大の JSSOM キャンスマップを作成してしまったツワモノもいます。今回のフォーラムではそうしたマイ O-map を持ち寄っていただき展示したいので、マイ O-map をお持ちの方は是非ご協力下さい。行けないけど出席の人に託す・・・でもよいです。そしてその手法をナビゲータの坂野が自作の教本を元にレクチャーします(13:00~14:00)。フォーラムの参加費は無料ですが、このレクチャーでは得た価値なりの寄付をナビゲータあてにお願いします(1000 円~2000 円程度)。印刷した教本が必要な場合は申し込みの際にその旨申告下さい。(教本必要な場合は寄付をお願いします。)この手法をクラブの誰かが手にすれば、もっとクラブの活動範囲が広がること請け合いです。

フォーラム“どうなる？全日本大会”

パネリスト(出席予定者)

西村徳真 2018-2019 全日本大会(ロング)プロデューサー 公募により採用(2018.3.7 公示)

山西哲郎 JOA 会長

村越 真 JOA 副会長 全日本大会 15 連覇、22 勝

広江淳良 JOA 競技委員会委員長

高村 卓 JOA 事務局長

奥田健史 公認大会のありかたを考えるワーキンググループ座長 JOA 理事

国沢五月 ジュニア委員会委員長(本年 5 月新設)

木村佳司 (常設)全日本大会実行委員会委員長
JOA 業務執行理事 進行役

下に資料として新プロデューサーとなる西村氏より提案があり、全日本大会実行委員会より理事会に提出された資料を載せています。5月のJOA理事会では継続審議になった模様です。5/26JOA総会でも懇談会の中で扱うそうです。西村案は全日本大会の財務経営状況改善の為には今の時期の開催では目的を達しなく、他の全日本大会の種目とマルチディ大会化をして秋に開催という案を出されています。今の全日本大会の財務状況を改善する確かに一手だとは思いますが。そして秋開催に移行するため、今までの年度を越えて選手権者を決定している変則開催から 2018 年度選手権

者の決定を一回スキップしようという案です。
(2018年6月17日に開催される全日本大会は2017年度の選手権者を決める大会)。

これについて、こんな簡単にこの組織の大看板のつけかえ事業が理事会だけで決まって良いのか、という議論は起こってくると思います。競技者の声を出すならここです。この全日本大会は“誰のために”“誰が”開催しているものなのでしょうか？その辺りの根本的な議論と共感される方向性がないとプロデューサー制をもってしても、全日本大会はこの先継続していけないと思います。本案内では簡単にここまでしておきますが、フォーラム3日前までには現プロデューサーの山川が自分のwebで積年に渡って全日本大会の継続に力を尽くしてきた経緯を参考資料として述べておきたいと思います。本フォーラムの参加費は無料です。JOAIに意見を言いたい方は奮ってご参加下さい。

(本文責:本大会・現プロデューサー山川)

レセプション

今回の全日本大会受け入れの地元中津川市より、レセプションを行います。主催・受け入れ側の団体挨拶の他、地元名産品の軽食と飲料の振る舞いがあり、歓談タイムとなります。参加無料です。レセプションからの参加も可能です。あくまでも軽食ですので、夕食の代わりにするものではありませんのでご留意下さい。

バンド演奏やダンスタイムはありません。

(参考:2017年に実施されたO-Forumではレセプションでバンド演奏やダンスタイムがありました)

事前申込

電子メールにて申し込んでください。

申込内容 :

参加されるかたの氏名をお知らせください。

申込期限 : 2018年6月10日

申込先 : kimura@orienteering.com (木村佳司)

事前申込者には発表資料をなるべく紙に印刷して当日にお渡します。

事前申込で募集人数に達しない場合は、当日申込も受け付けます。その時は事前にアナウンスします。

募集人数:100名

参加費 : 無料

にぎわいプラザ(会場)への交通案内

公共交通機関

JR中央線「中津川」下車。駅を出て左側徒歩1分。

駅を出て6階立ビルがすぐ見えます。

自家用車

以下のURLに「にぎわいプラザ」の駐車場案内があります。

<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/page/050793.html>

にぎわいプラザ専用駐車場(70台)を、O-Forum参加者は無料で利用することができます。駐車場自体は有料駐車場ですが、にぎわいプラザに駐車券をお持ちいただくと、無料になります。満車の場合は中津川駅周辺の有料駐車場をご利用ください。

【理事会 ML 資料】

2019 年-2020 年全日本オリエンテーリング大会 (ロングディスタンス競技) 事業計画案

平成 30 年(2018 年)4 月 10 日

(公社)日本オリエンテーリング協会

(常設)全日本オリエンテーリング大会実行委員会 木村佳司

【まえがき】

2019 年、2020 年の全日本オリエンテーリング大会(ロングディスタンス競技)を推進するプロデューサーの西村徳真氏から、2018 年(平成 30 年)6 月 17 日の後に開催される全日本オリエンテーリング大会の基本プランが示され、(常設)全日本オリエンテーリング大会実行委員会はこれを了承した。理事会にその計画を報告する。

【基本計画】

2018 年度大会:全日本オリエンテーリング大会(ロングディスタンス競技)は開催しない。

2019 年度大会:2019 年秋に滋賀県での開催(全日本ミドルと 2 日間)を目指して調整中。

2020 年度大会:全日本ミドルと 2 日間大会を前提に立候補地の公募を行う。2018 年末頃締切で公募を受け付け、それを受けてプロデューサーが開催地を決定する。

■ なぜ秋に開催するのか

秋に定例的に開催するのが最もふさわしいと考えている。参加者にとってもっとも望ましい季節である。他の季節では以下のような課題がある。

春:十分な参加者数が見込めない。競技人口の半数を占める大学生がインカレ後の新歓期である。

夏:高温多湿の日本では競技パフォーマンスを出す上で厳しい。

冬:積雪により利用可能なトレインが限られる。

■ なぜ全日本ミドルと 2 日間大会なのか

2 日間にわたって運営にかかるリソースを有効活用し、競技・演出等の全日本大会としての根幹的なリソースに集中投入するため。

広大な地図が必要なロングを単日イベントでやるのがそもそもやはり無理がある。その広大な地図への投資を回収するオーソドックスな方法が 2 日間大会であり、その相方として、同じフォレストで開催出来る全日本ミドルが最も適切と考える。今まで全日本 4 種目が日程も地域もばらばらに開催されたために参加者も分散傾向にあったという課題も解決できる。全日本ミドルと運営リソースを共有し参加者数が相乗効果で増えれば、それによって生まれる余剰を地図・コース・演出に投入することができ、全日本大会の魅力が大きく高めることが出来るようになる。

■ その上での 2018 年度大会について

2017 年度大会が 2018 年 6 月に開かれるということで、恒常的な期ズレが発生している。2019 年秋に 2018 年度大会を開くというのはもうさすがに無理があり、期ズレを解消する必要がある。

そのためには 2018 年度中にもう一度 2018 年度大会を

開く必要があるが、以下の理由で開くべきではないと考える。

・準備期間が短すぎて十分な質を確保できず、全日本大会改革にかえて悪影響である

→さまざまな形で全日本大会を改革が試みられ、実際に求心力が回復しようとしているこの時期に、中途半端な形で全日本大会を実施してしまうと、それが全日本大会改革を後退させる恐れがある。やるならしっかりと準備をして「これぞ全日本」と思ってもらえるものであるべき。

・競技者にとっても供給過剰であり、求められる大会とにならない

→2017 年 6 月~2018 年 11 月の 1 年半の間に 3 回の全日本ロングがある状況は、競技者として求めるものではないと考える。

抜けが発生するのはネガティブな印象を持たれるかもしれないが、これは将来の計画・見通しがあつてのもので、決して悲観的にとらえる必要はないと考える。しっかりと沈み込まなければ大きくジャンプをすることはできない。将来のための助走期間と前向きに捉えていただきたい。

【参加費】

日本選手権実施基準における参加費の規定を

ロング:「4000 円」から、「主催者または管理者が定めた参加費に、選手権料(1000 円)を加えた額」に改訂を提案する。

【E 権規定】

2019 年度大会に向けて全日本 E 権に関するルールに以下の改訂(特例)を求める。

・「当年度公認大会」を全て「前回全日本大会より後に実施された公認大会」に、

・「前年度全日本大会」を全て「前回全日本大会」に、

それぞれ読み替えて全日本 E 権を付与する

(これで対象期間が長くなるため、E 権取得機会が少ないという問題を若干でも緩和出来る)

2020 年度大会に向けて、E 権ルールをシンプルにわかりやすくするために抜本的な改訂を行う

(以上西村徳真プロデューサーの計画)

【常設全日本オリエンテーリング大会実行委員会のコメント】

全日本オリエンテーリング大会(以下全日本大会)は、2016 年(平成 28 年)3 月 20 日に開催された第 42 回大会までは、JOA 会員による持ち回りで開催されていた。しかしながら全日本大会の開催は会員にとって負担が大きく、引き受ける会員がほとんどいない状況となっている。そこで 2017 年(平成 29 年)6 月 17 日に開催された、第 43 回大会から公募によって選ばれたプロデューサーが、自由な発想で全日本大会を継続できる大会に改革することを目指している。こうした進め方の改革の目的は「全日本オリエンテーリング大会を継続開催することである。継続開催のためのアイデアであれば、まずはあらゆる可能性を検討してみることが必要である。西村プロデューサーからは今までの進め方と大きく違う提案が出ている。まずはこの計画についての実現性を考えることから進めてゆきたい。

(全日本大会実行委委員長 木村佳司)